

◆アンケートの概要

- 市内在住の方5,000人を無作為抽出して調査票を郵送した「抽出アンケート」と、それ以外の方を対象とし、インターネットやファクスなどで御回答いただく「公開アンケート」の2種類のアンケートを実施しました（設問は同じ）。
- アンケートにおいては、区役所や本庁舎の利用状況、新しい本庁舎が備えるべき機能として重要だと思うことなどに加えて、平成25年度に実施したパブリックコメントにおいて市民から様々な意見のあった、自治体の顔としての建築物の質の高さと経済性・効率性のバランスについてや、現在の本庁舎の正面の外観を復元して、新しい本庁舎の一部として組み込む必要があるかについても伺いました。

※抽出アンケート

- 市内在住で20歳以上の方5,000人を無作為に抽出し、調査票を郵送しました。川崎市民の年齢構成比率及び各区ごとの人口比率に応じて抽出したものですので、一般的な市民の意見が反映されたものと考えています。
- 抽出アンケートの回答数は、1,668（回答率33.4%、配布数の約1/3）でした。

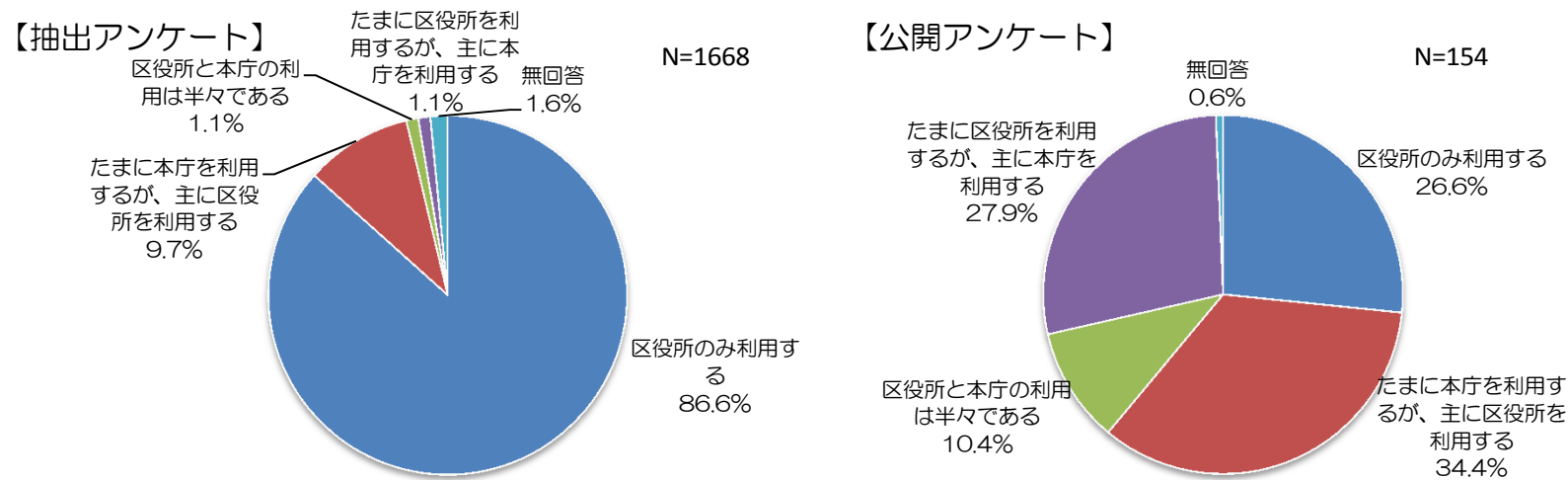
※公開アンケート

- 抽出アンケートと同じ内容の調査票を、市ホームページに掲載し、インターネットで回答できるようにしたほか、各区役所と情報プラザ（第3庁舎）にて配布し、回収箱への投函やファクスにより回答できるようにしました。
- 公開アンケートに回答した方は、抽出アンケートで無作為抽出された一般的な市民よりも、本庁舎について高い関心を持っている方の回答が多いと考えられるため、抽出アンケートによる一般的な市民意見と区別し、別に集計をしました。
- 公開アンケートの回答数は、154（抽出アンケート回答数の約1割）でした。

◆主な設問の回答結果と考察

問5以降の設問の回答結果と考察は、以下のとおりです（問1～問4は、性別、年齢、居住区など、回答者の属性について伺った設問であることから、省略します。）。

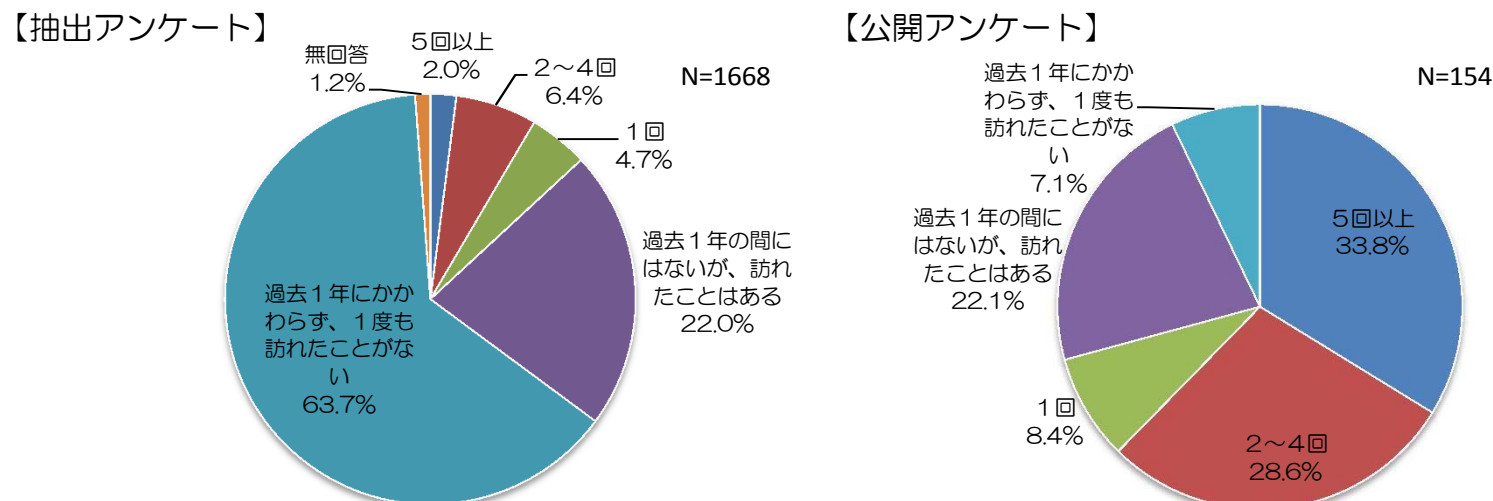
問5 あなたは、区役所と本庁のどちらを多く利用されますか。



●考察

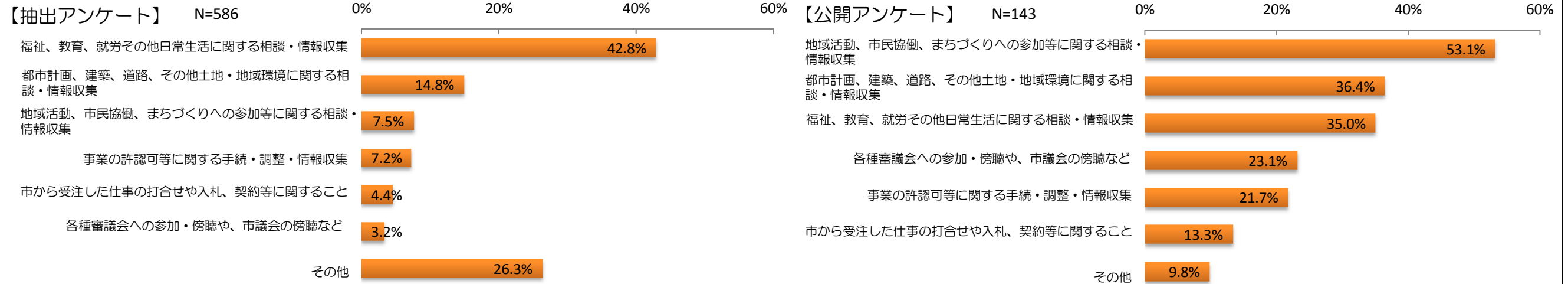
- 【抽出アンケート】
「区役所のみ利用する」方が8割を超えており、また、本庁を「過去1年にかかわらず、1度も訪れたことがない」方が6割を超えているなど、大多数の市民にとっては本庁ではなく区役所が窓口機能の中心となっていることを反映しているものと考えられます。

問6 最近、概ね1年間に何回ほど本庁を訪れましたか。



- 【公開アンケート】
「たまに本庁を利用するが、主に区役所を利用する」方を含め、本庁を利用する機会のある方が7割を超えているなど、一般的な市民よりも本庁を利用する機会が多い方が公開アンケートに回答していることがわかります。

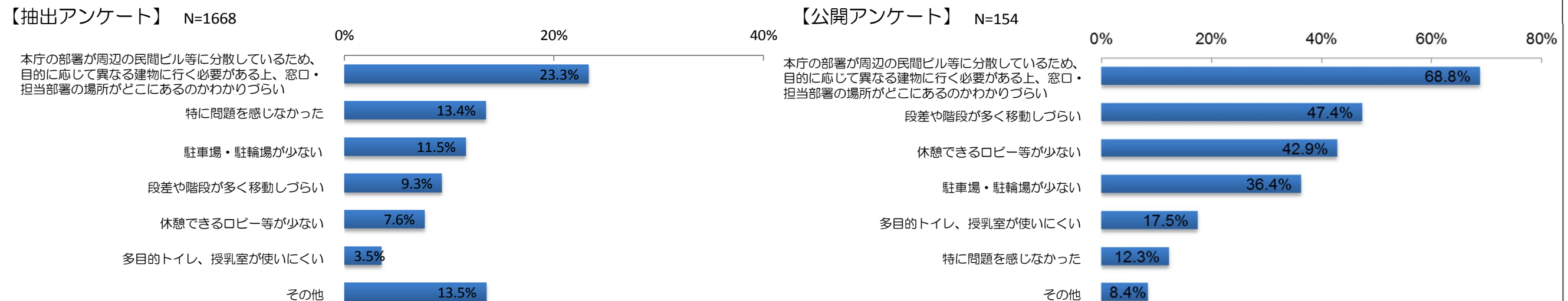
問7 主にどのような用件で本庁を訪れましたか。(複数回答)



●考察

- 【抽出アンケート】では、「福祉、教育、就労その他日常生活に関する相談・情報収集」が4割超で最も多く、「都市計画、建築、道路、その他土地・地域環境に関する相談・情報収集」も合わせると、過半数を占めています。このことから、多くの手続の窓口となる区役所と異なり、本庁舎は市民にとって、区役所では取り扱っていない事項に関する情報の収集や、相談を行う場所となっていることが伺えます。
- 【公開アンケート】では、「地域活動、市民協働、まちづくりへの参加等に関する相談・情報収集」が過半数を占めており、また、「都市計画、建築、道路、その他土地・地域環境に関する相談・情報収集」や「各種審議会への参加、傍聴や、市議会の傍聴など」など専門性の高い用件が、抽出アンケートに比べて2倍以上となっています。これは、公開アンケートは、一般的な市民よりも市政への関心が高い方が多く回答していることを反映しているものと考えられます。

問8 本庁を訪れて不便に感じたこと、または、不便そうに見えたり、そのような声を聞いたこと。(複数回答)

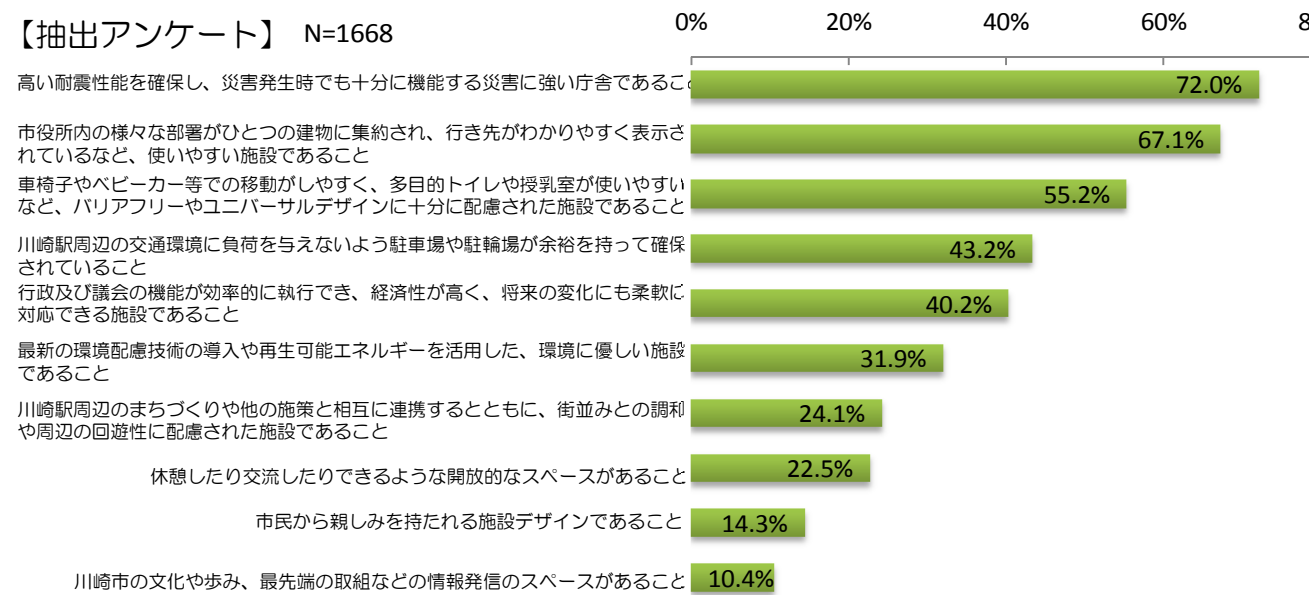


●考察

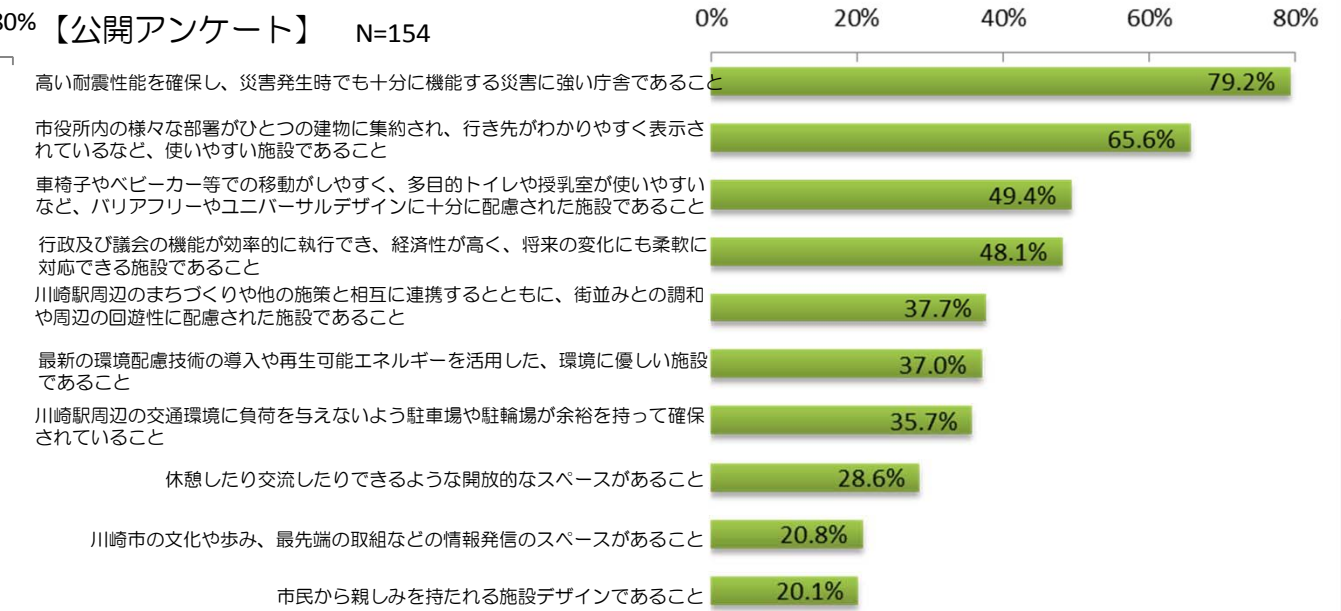
- 【抽出アンケート】【公開アンケート】ともに、「本庁の部署が周辺の民間ビル等に分散しているため、目的に応じて異なる建物に行く必要がある上、窓口・担当部署の場所がどこにあるのかわかりづらい」が最も多いことから、本庁機能の分散により、市民の利便性が損なわれており、建替えの際には、新しい本庁舎に本庁機能を集約することが求められていることが伺えます。

問9 新しい本庁舎が備えるべき機能として重要だと思うこと。(複数回答)

【抽出アンケート】 N=1668



【公開アンケート】 N=154



●考察

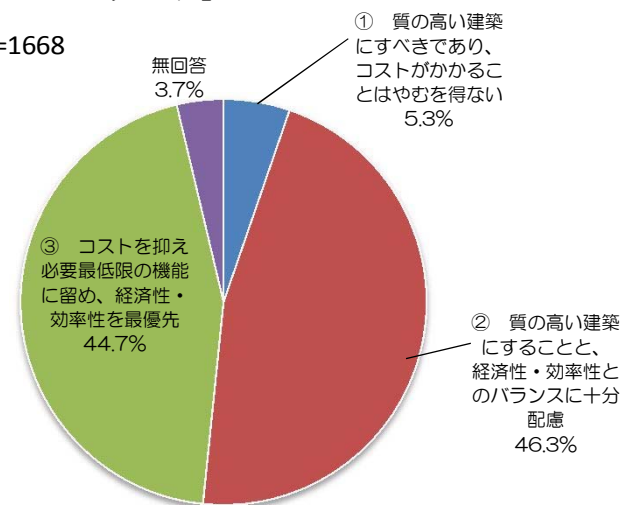
- 【抽出アンケート】【公開アンケート】ともに、「高い耐震性能を確保し、災害発生時でも十分に機能する災害に強い庁舎であること」が最も多く、「市役所内の様々な部署がひとつの建物に集約され、行き先がわかりやすく表示されているなど、使いやすい施設であること」が次に多く、高い耐震性能を有する新庁舎に建て替えることと、新しい本庁舎に本庁機能を集約することが求められていることが伺えます。

問10 自治体の顔としての建築物の質の高さと、経済性・効率性のバランスについて

- ① 新しい本庁舎は、自治体の顔にふさわしい質の高い建築にすべきであり、そのためにコストがかかることはやむを得ないと思う。
- ② 新しい本庁舎は、自治体の顔にふさわしい質の高い建築にすることについても一定の配慮が必要だと思うが、経済性や効率性とのバランスに十分配慮することが必要だと思う。
- ③ 新しい本庁舎は、自治体の顔にふさわしい質の高い建築とすることよりも、できるだけコストを抑えながら必要最低限の機能を満たすようにするなど、経済性、効率性を最優先すべきと思う。

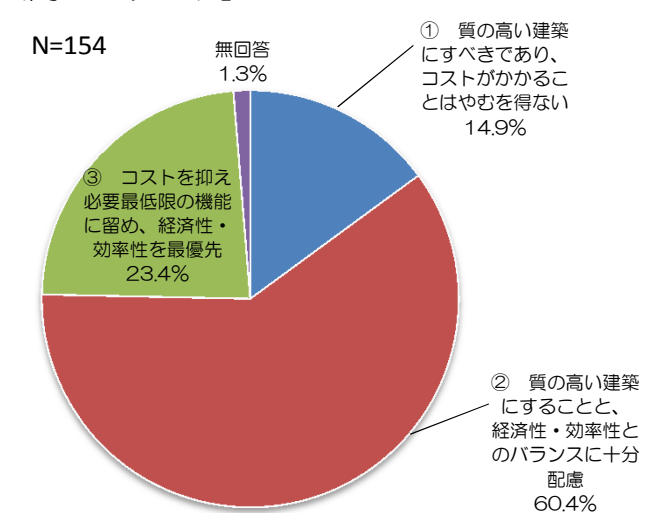
【抽出アンケート】

N=1668



【公開アンケート】

N=154



●考察

- 【抽出アンケート】【公開アンケート】ともに、②の回答が最も多いこと、また、抽出アンケートでは③の回答も多いことなどから、経済性・効率性に十分配慮し、コストを抑えながら、その範囲の中で、一定程度の質の高い建築とすることが求められていると考えられます。
- ③と回答した方の自由記入欄には、華やかな外観や奇をてらったデザインは必要ないという意見が多くありました。一方、①又は②と回答した方の自由記入欄では、建築デザインのシンボル性が必要であるという意見もありましたが、地域の活性化に資するようにぎわいのある魅力的な空間を創出することや、高い環境性能を備えること、長寿命化することなどの意見もありました。

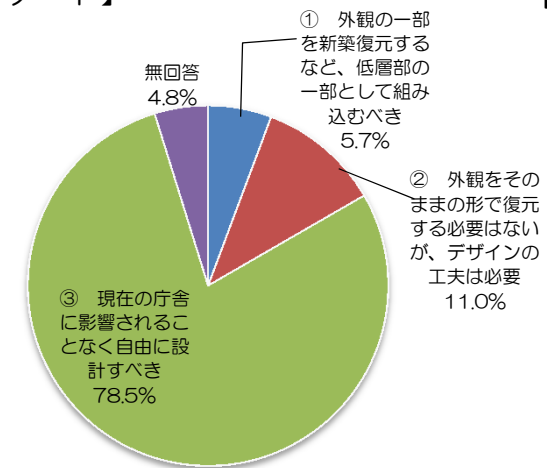
問11 現在の本庁舎の正面の外観を復元して、新しい本庁舎の一部として組み込む必要があるか

- ① 現在の本庁舎の正面の外観の一部を新築復元（※）するなどして、新しい庁舎の低層部の一部として組み込むべきであると思う。
- ② 現在の本庁舎の正面の外観をそのままの形で復元する必要はないが、新しい庁舎の低層部の窓の配列を現在の庁舎と同じにしたり、新しい庁舎の低層部の外壁に現在の庁舎と同じスタイルを使ったりするなど、何らかのデザインの工夫はしたほうがいいと思う。
- ③ 新しい庁舎は、現在の庁舎に影響されることなく自由に設計すべきであり、現在の庁舎については、模型、写真、図面などで記憶を継承すればいいと思う。

※ 新築復元とは、現在の建物をいったん解体し、もとの姿を復元する工法です。

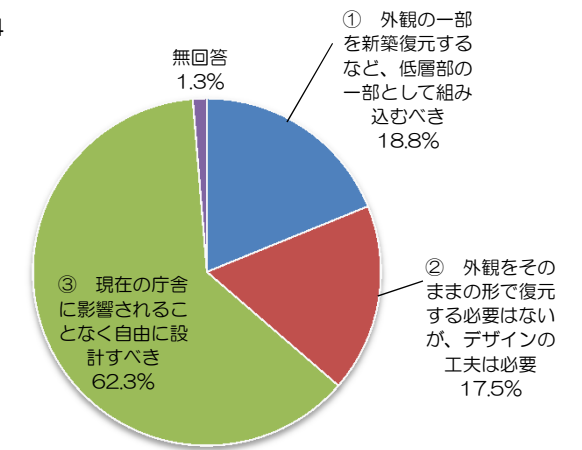
【抽出アンケート】

N=1668



【公開アンケート】

N=154

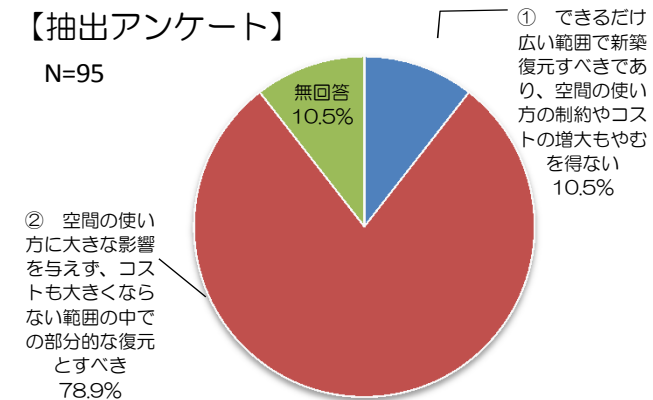


問12 現在の本庁舎の正面の外観の一部を新築復元する場合について (問11で①と答えた方のみ)

- ① 現在の本庁舎の正面の外観をできるだけ広い範囲で新築復元すべきである。また、その際、空間の使い方に制約ができた、コストがかかったりすることについてもやむを得ないと思う。
- ② 現在の本庁舎の正面の外観の新築復元にあたっては、空間の使い方に大きな影響を与えず、コストも大きくならない範囲の中での部分的な復元とすべきである。

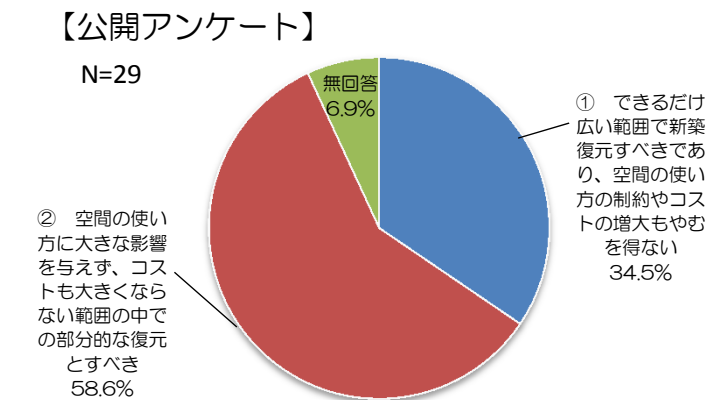
【抽出アンケート】

N=95



【公開アンケート】

N=29



●考察

- ・ 問11では、現在の本庁舎の保存は困難なことから、正面の外観の一部を新築復元するなどして、新しい庁舎の低層部の一部として組み込むことを念頭に置いた設問としましたが、新しい庁舎は、現在の庁舎に影響されることなく自由に設計すべきであるという意見が、【抽出アンケート】で78.5%、【公開アンケート】で62.3%となるなど、【抽出アンケート】【公開アンケート】のいずれにおいても、現時点では、無理をして現在の本庁舎の外観を残す必要はないという意見が過半数を占めています。
- ・ 一方、現在の本庁舎の外観の継承について、新築復元を含めたデザインの工夫を望む意見として、①②を合わせると、【抽出アンケート】で16.7%、【公開アンケート】で36.3%となっており、一定の割合の方が、現在の本庁舎の外観を継承できるような計画を望んでおり、また、自由記入欄でも、時計塔を中心に、現庁舎の外観の継承を求める記載があったことから、こうしたことについても配慮することが必要と考えられます。また、問12では、【抽出アンケート】【公開アンケート】ともに、②と回答した方が過半数となっていることから、現在の本庁舎の外観の継承を望む方でも、多額のコストをかけることは望んでいないことが伺えます。
- ・ 現在の本庁舎の外観を継承すべきかについては、歴史・文化的な価値についての検証などを行った上で、総合的に判断することが必要であると考えられますが、こうした場合においても、できるだけコストがかからない計画を検討するなどの配慮が必要であると考えられます。

◆総括

- 新しい本庁舎は、災害対策活動の中核拠点として機能する高い耐震性能を確保することとともに、現在は周辺民間ビル等に分散している本庁機能を集約し、使いやすい施設とすることが求められています。
- 新しい本庁舎は、経済性・効率性に十分配慮し、コストを抑えながら、その範囲の中で、一定程度の質の高い建築とすることが求められています。
- 新しい本庁舎は、現在の庁舎の外観に影響されることなく自由に設計すべきであるという意見が過半数を占めていますが、現在の本庁舎の外観を継承することを求めている方も一定程度いるため、こうしたことへの配慮も必要です。また、現在の本庁舎の外観を継承すべきかについては、歴史・文化的な価値についての検証などを行った上で、総合的に判断することが必要であると考えられますが、こうした場合においても、できるだけコストがかからない計画を検討するなどの配慮が必要であると考えられます。